

第6回鹿野地域振興会議議事概要

日 時：平成30年11月9日（金） 午後1時30分～午後3時53分

場 所：鹿野町総合支所2階 会議室

【出席委員】

山田薫、小川義和、山本章、筒井洋平、田中文子、向井健太郎、山下直司、兼平恵、伊井照幸、砂川重雄 以上10名出席（敬称略）

【欠席委員】

池原美穂、佐々木千代子（敬称略）

【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、岡田産業建設課長、上野市民福祉課長、三谷地域振興課長補佐

【水道局】

西垣課長、中島所長

【傍聴者】

なし

【日 程】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

（1）行事予定（資料ダウンロード）

（2）防災行政無線デジタル化・地域情報伝達設備事業について（資料ダウンロード）

（3）公共交通（気高循環バス）の現状について（資料ダウンロード）

4 議題

(1) 統合前の簡易水道給水区域の整備計画（地域水道整備計画）について（資料ダウンロード）

(2) 防災対応について（資料ダウンロード）

(3) 委員提案及び質問

①委員提案 『鹿野すげ笠について』（資料ダウンロード）

②質問 『大雨特別警報避難指示発令について』（資料ダウンロード）

5 その他

○次回開催日 1月17日（木）13：30～

6 閉会

◎議事概要

報告事項

(1) 経過報告

事務局より資料1に基づき説明

【委員】文化祭など子どもの出番、発表時間数が少なく不完全燃焼している。準備に4時間くらいかけて発表が10分と聞いている。事前に検討が必要だったのではないか。

【委員】見に行かない保護者も多かった。

【委員】子どもは保護者に活躍の場を見て欲しいと思っている。

【委員】大規模校はそうであるが、全体の時間数を増やせないとどうするか。

【委員】午後2時30分に終了したので延長しても良かった。

【委員】運動会では1年から9年まであるので走る競技が少なかったように思うが今後検討していただけたらと思う。

報告(2)と議題(1)を入替

議題

(2) 統合前の簡易水道給水区域の整備計画(地域水道整備計画)について

水道局より資料4に基づき説明

【委員】20年は非常に長い期間となっているが・・・。

【水道局】水道事業は施設を毎年更新していく事業である。施設の耐用年数が大体40年とし、15年、20年と施設を使用し続けていく必要があり更新し続ける事業である。その中で施設同士を1つにしていきトータルコストや維持管理を安くしていく事を目指しているもの。今後長い事業で子ども孫まで使い続けていくもので整備もし続けていくものです。

【委員】一番気になるのが水道料金の値上げで、直近では2年前だったと思う。

【水道局】水道料金に関しては、今は上水道と簡易水道の二本立てになっています。統合前の上水道給水区域は平成30年4月から18.4%値上げしています。簡易水道は平成28年に統一してから同じ金額で、大体一月20m³を使用する場合で2カ月の請求は2,700円から2,800円くらいで変わっていません。なお、事業統合して3年後の平成32年4月からは、統合前上水道区域の料金と同じ金額になります。既に議会で承認され決定されています。今の水道料金から1年半後に

は水道と簡易水道は一緒の料金になります。約1年半先には鳥取市が一つの料金になるということです。

(2) 防災行政無線デジタル化・地域情報伝達設備事業について

事務局より資料2・資料4に基づき説明

【委員】集落への出前説明は自治会からの申し出があってから行政が行っているのか。

【事務局】そうです。行政連絡会で既に事前に自治会長様をとおして希望する集落には出前説明会を行うことを説明しておりますし、支所だよりでも周知しています。

【委員】日本海ケーブルを利用するとお金がかかるので批判があった。有線放送設備の設置には補助金があるので利用した方が良くと他の地域にも説明しているがあまり乗り気でない。各町内に2か所二人に緊急の通報が直接入るのでどちらかで有線で連絡を流すようにしているが、屋外スピーカーの放送は聞き取りにくい。今は昼のチャイムだけが流れているのか。

【事務局】既に設置されているところは放送が流れています。災害の時の音量の5割か6割です。

【委員】音量が大きいとかえって音が割れる場合もある。試験放送はしないのか。

【事務局】週末に防災訓練が実施されるのでその時に確認してください。

【委員】今の家はサッシなど防音の設計になっており、家の中では聞き取りにくい。手っ取り早いのは、その放送を聞いたら有線放送で流すのが良い方法だ。

【委員】青谷町では屋外の防災無線放送を1年早く実施している。

【事務局】そうです。

【委員】青谷では今年の初め頃に老人クラブでアンケート調査をした。「風で聞こえない」という回答が何%といった詳しい結果がある。天気の良い静かな時は聞こえても一番役に立たなければならない災害時に聞こえなかったのは現実的に悲しい問題だ。音声告知端末の普及率が13%というのも少ないのでどうするか。それを解消するため設置を促すとか、補助の受付期間を延長するといったことはどうだろう。

【事務局】現在補助している音声告知端末は、有線放送の代わりにもなります。ただし、日本海ケーブルに加入しないといけませんし、100%集落の会員が音

声告知端末を設置するかというとハードルが高いところもあります。今、普及率が10%程しかないのですが支所からの放送は流しています。支所から引き続き放送を実施していけば口コミで増えてくるのではないかと思います。また、より有効な情報を流していけば広がっていく事を期待しています。今後も支所だよりに情報を掲載していくようにします。

【委員】日本海ケーブルに加入している人は1万円くらいの個人負担だったか。

【事務局】そうです。

【委員】支所が直接避難の指示など流すこともあるのか。

【事務局】避難情報は、あらゆる媒体を活用して提供することが重要であり、音声告知端末での放送も行います。現在即時情報は防災行政無線での放送のみです。

【委員】鹿野の日本海ケーブルの加入率はどのくらいか。

【事務局】84%くらいです。

【委員】青谷は1年先行して実施しているようだが、青谷の普及率はどのくらいか。

【事務局】青谷は28%くらいです。

【委員】集落に2台設置できる戸別受信機の申請状況はどうか。申請を受け付けているようだが何時つくのか。

【事務局】防災行政無線の戸別受信機のことですね。屋外スピーカーに流れる内容が戸別受信機に流れる仕組みです。例えば自治会長さんや自主防災会長さんなど3年以上設置していただくことが条件となります。また、民生児童委員さんなどには別途配布する予定です。現在、設置時期については調整中です。

【委員】それは有料か。

【事務局】無料です。

【委員】ただ移転したら実費をもらうことになるようだ。我が集落の場合は、自治会長は1年毎に交代するのでなかなか付けられないので、防災会の会長と副会長につけた。自主防災会の方も長く続けてもらわないといけないが・・・。

【委員】2台はそうだが、我が集落ではそれ以外に部落有線があるのでそれで流せばいいということでしょう。

【委員】集落によっては、その部落有線もない。

【委員】民生委員とか設置された役員は3年以上は続けなければいけないという

ことだ。

【事務局】消防団関係のところには、設置されます。

【委員】2台以外に消防団関係のところには設置されるという事か。

【事務局】そうです。

【委員】自治会への出前説明会は希望があった集落に行ったということか。

【事務局】1月の行政連絡会で自治会長にはその旨説明を行いました。

【委員】自治会長の判断で出前説明会をするかしないかの考えがかなり分かれている。そういう説明会があるということ自体も知らないことがある。

【事務局】新年開催の自治会総会であらためて自治会長に説明をいたします。

【委員】結局自治会長が、出前説明会を希望しなかったら開催しないことになってしまう。ある集落は、加入率100%のところがある。自治会長が頑張っている感じがする。

【委員】日本海ケーブルに入っている集落は加入率が良いように思う。

【委員】基本的に屋外スピーカーは聞こえないと思った方がよい。

【委員】東北の震災があった際、緊急放送が聞こえなかったようだ。

【委員】試験放送を早急にしてもらい、自治会総会で実態を知らせて欲しい。

【事務局】さっそく11月11日に防災の訓練がありますので、試験をいたします。

【委員】屋外スピーカーは増やすことはあるのか。

【事務局】現時点では今の19基でカバーできると考えています。梶掛集落では、場所によって音が大きすぎて耳が痛いとの苦情があったことも事実です。

【委員】現実に家の中で聞くのと外で聞くのとは距離、風向状況で聞こえ方が違う。一律ではない。行政が聞こえるようにするからと言っても計算どおりにはいかないと思う。現実にはジェイアラートが瞬時だろうが遅れて聞こえようが確実に聞こえる方がよい。

【事務局】市議会でも議論になっていますが、新本庁舎の開庁に伴ってFMラジオを活用した個別の防災無線の仕組みづくりを検討しています。それまでの間は、市報でもPRさせていただいておりますが、屋外拡声器で何か情報が流れているなどと思えばテレビやラジオなど積極的に情報を収集していただくこともお願いしています。

【委員】我が家でも孫はチャイムでさえも聞こえるが、私が聞こえないという状況がある。高齢化社会の中でどういう仕組みが早い伝達につながるのか考えなければならぬ。

【委員】今はラインに緊急連絡が入る。そういう方法も効果的ではないか。ライン、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどの媒体を利用した方が見る確率も高い。後は口コミで拡散するのでそういった媒体での地域情報の共有も効果的だと思う。

(3) 公共交通(気高循環バス)の現状について

事務局より資料3に基づき説明

【委員】今小学生が利用している循環バスも、将来乗る子どもがいない。〇〇地域では子どもすら乗っていない。そういった状況もある。

【委員】交通事業者に頼らない方法を考えないといけない。退職された方でバスやタクシーの元運転手さんとか結構おられるのではないかと。

【事務局】気高循環バスのようなタイプのバスは、大型車両を使う必要があります。場合によっては二種免許が必要となります。例えば内海中のように住民で運行している場合は自家用車を使用しています。

【委員】鳥取市全体で有償運送みたいなのは運行していないのでは。

【事務局】運行しています。今お話しした内海中はかなり早い時期から運行しています。末恒地域ですが、ここでもドライバーの高齢化の課題があるようです。

【委員】鳥取市に生活交通会議があるが、鳥取市の代表としてこの春まで3年間委員をしていた。有償運送の認可は条件があり難しい。運転手は何歳でどういう免許を持っているとか何年間のドライバー経験があるとか全部写真入りで免許証まで写して、県の交通政策課や市の生活交通会議のメンバーや県警、タクシー協会の委員とかで審査をする。なかなか有償運送に関しては難しいと思った。

なお、鹿野の老人クラブ会員は1,300人近くあるが、1,200名くらいに全部アンケート配って、一番困っていることはどういう事か、地域で何が困っていてお互いの助け合い運動が出来るかなどのアンケートをしたが、その中で一番の困りごとは交通問題であった。

では、私が病院にお連れしましょうとかいう方がおられるのだが、事故等があった場合があるのでやらない方がいいと思う。ごみ出しのお手伝いや声掛けて安否

確認する程度である。交通弱者のための交通会議を鹿野で立ち上げようと思うのはとてもいい考えではあるが、難しいと思う。

【事務局】公共交通の課題は、全国的にだんだん深刻化してきています。この公共交通空白地有償運送の場合は、比較的取り組み易いのではないかと思います。

支援の見直しも必要かと思えます。長く継続できる仕組みを何とか生み出していくことを真剣に考えていかなければいけません。先だって視察した日南町はNPOの運営で少し運賃を割高にしても住民から理解を得られたらという説明を受けました。

【委員】割高でも便利ということもある。

【委員】バス停だけではなくどこでも手を挙げたら乗れるような仕組みも考えていかなければいけない。

【委員】支所の方で検討会を持たれた際は協力していく。

(2) 防災対応について

事務局より資料5に基づき説明

【委員】50年に1度とか何十年に1度とかの確率で説明を受けたが、千年に1度等が明日かもしれない。1時間で3倍位の雨が等の表現で言ってもらった方がわかりやすい

【事務局】わかりました。補足しますと先般の24時間あたりの雨量2倍位の雨です。

【委員】河内川の真横に避難するというのは考え方として信じられない。いかに遠く、いかに高いところに洪水から避難するのが普通である。水谷川の状況を見たが大した濁りもなく水量もなかった。全市に避難指示が出たのが不思議である。そういう状況でもないのにというのが皆の意見であった。

【委員】同じ雨が降っても災害の出方が違うと思ったのは、河内川はさほど増水していない。しかし、小別所や鷲峯の人は避難された方が多い。なぜかというところ裏の山が滝のように水が染み出していた。〇〇さんの家や我が家でもあと30分降っていたら床上浸水していたと思う。

【委員】全市に防災無線で避難指示が出たのは正解だと思う。地域によっては洪水なんてありえないと思ってもそれぞれの状況が違うので地域である程度集まって対応することも仕方がないと思う。

【委員】土砂崩れで流木が引っかかってとかという状況だけではなく、いろいろな形の災害があるということを地域で共有することの大事さを感じた。

【委員】今回は、道路が川になっていた。暗くなってくると家にいた方が安全だと思った。

【委員】鹿野小学校のあたりは、伊勢湾台風で流れたと記憶している。今市に玉川という集落があったが、洪水防止の土手が築いてある。堤防決壊で勝谷に流れたという歴史があるので、参考図におとして欲しい。

【事務局】河内川は何十年もかかって改修してきた経緯があります。最新結果に基づいたシュミレーションです。伊勢湾台風の復旧工事は、20年30年とかかかっています。何十年も改修を行ってきており強い川にはなってきました。

【委員】雨が沢山降る割には、河内川は安全である。

【委員】データに基づいて川は広げてある。今問題なのは河床がどんどん上がってきている。何年かに1回は河床を整理するべきだ。

【委員】青谷の日置川は低いので氾濫して床上浸水で大変だった。

【委員】日置川というより露谷川が氾濫している。今改修している。

【事務局】資料5を見ていただくと鹿野と青谷に今回は集中しています。特に青谷は200件近い被害が発生しています。床上浸水も17件です。鹿野では床下浸水が1件ですが、土木災害は青谷以上に発生しています。

【委員】小学校には何名避難したのか。

【事務局】7時45分に開設し一番多い時は6世帯14人でした。そして13時にはゼロになっています。

【委員】避難所に布団はあるのか。

【事務局】布団はありません。毛布を備蓄していますが、不足する時はすぐ持っていくようにしています。自主避難の場合は避難者に最低限の持ち物は準備していただくように呼び掛けております。食べ物にしてもそうです。避難勧告や避難所を開設する場合と自主避難とは違います。

【委員】その時によって状況も違うことがありますが、皆さんの知恵を借りながら情報の出し方や対策の取り方を総合支所が中心になって総合的に検討しているようですのでまた聞かせていただく。

(3) 委員提案及び質問

①委員提案 『鹿野すげ笠について』

井伊委員より資料6に基づき説明

【委員】すげ笠を初めて使用してみた時は、涼しいし実用的で良かった。鹿野の伝統工芸を伝承して欲しいと思っている。蓮ウオークで時々見かけるが、普段からでも作業するときには使用するように心がけていくのが良い。その姿を写真に撮ってPRしていくとか、その手立てを皆で考えていくのはどうか。例えば補助金を出してとかもある。

【委員】中学生はかなり取り組みを行っていることを知っているか。一緒に刈り取りの手伝いなども行っている。

【委員】授業の中でも行っているのか。

【事務局】行っています。現在鹿野すげ笠を守る会の会員数は10名程度で、平均年齢60歳くらいで活動しており、すげ、稻わらの材料栽培などは、鹿野学園の7年生7名が表驚科で技術継承に取り組んだり、他県のすげ細工団体等と技術交流を行っております。すげ笠の販売は年間150枚くらいです。他に鍋敷き30個、コースター720個、しめ飾り1,200個、城山神社の祭りのしめ縄もつくられています。

Q1 各種イベントへの参加者の着用の件ですが、

「城下町ぶらり鹿野蓮ウオーク」では、すげ笠の販売をおこなっており、鹿野学園の校長、教頭先生などもかぶっていただいています。また、参加者にすげ笠を貸出ししてすげ笠の良さを体験していただいています。わったいな祭りでも販売していますし、ぷらっと鹿野の会員の方などもかぶられてPRされております。会の村上代表は、会員が高齢化しているのもあるので多くのイベントにはなかなか参加することは難しいとのことでした。

Q2 鹿野の伝統工芸をメディア等でももっとアピールをということですが、米グーグルのインターネットサイト「日本の匠」にも掲載され、画像と動画を使ってすげ笠の魅力を世界に向けて発信しています。

ただ、あまりPRすると供給が難しくなる面もあります。現時点では、需要に対して供給が間に合っていない状況で、補助金より、人手を確保することが課題というのが現状とのことでした。

【委員】数は少なくともすげ笠は作っているということか。少なくとも鹿野で作

っているすげ笠は鹿野産なのか。

【事務局】そうです。鹿野産です。

【委員】大阪の森之宮に数年前視察に行ったとき相手側はすげ笠を沢山作っていた。昔は鹿野のすげを材料として作っていたという事であった。鹿野には非常に縁が深いと言われていた。

【事務局】鹿野でもすげ笠を守る会ですげを作っておられます。

【委員】山根町の旧鹿野小学校プールの近くにすげの畑がある。昔はすげ田はいっぱいありおばあさんらが手入れをされていた。鹿野町農業者トレーニングセンターあたりにはあるようで手入れをしないと大きいいものが育たない。今はすげ田はない。

【委員】すげを作るにも時間がかかり、笠を作るにも手間がかかる。昔は自分たちが使うものとして作っていた。

【委員】今はなかなかいいものが作れない。儲けは考えられない。

【委員】私は今でも使用している。いいですよ。

【委員】先人の力はすごい。長持ちもする。

【委員】一枚は何円くらいするのか。

【事務局】鹿野すげ笠 15インチ（≒37.5cm）1,800円/個、
18インチ（≒45.0cm）2,200円/個、20インチ（≒50.0cm）3,200円/個です。

【委員】作業をするときは、3,200円くらいする大ききの分が良い。

【事務局】作るのに3日くらいかかるようです。

【委員】人件費がかかるし3日もかかると大変だ。

【委員】下地を作るのも大変で、竹を割る技術がないと難しい。

【委員】それを作れと言っているんだよね。

【委員】夢こみちに大きいのがあって雪あけに使うのに肩まであって身体が濡れない。

【委員】鹿野学園も伝承しているし、対策をいろいろ考えてもらって見守ってほしい。

その他

子供食堂見学感想

伊井委員より感想発表

6 閉会